

和英辞典はええわ

中本 恭平

英語を学習する人なら大なり小なりなんらかの英和辞典を持っているものだが、「和英辞典はええわ」(関西弁で「和英辞典は結構です、いりません」の意)と敬遠する人が少なくない。和英辞典不要論を唱える前に、和英辞典の利用価値を再考しよう。

1 訳語検索

ある日本語に相当する英語を知りたいときに和英辞典が最も頼りにされる。例えば、岩や船底に張りつく「ふじつば」は英語で何と言うか？

ふじつば 藤壺《動》a barnacle (『研究社和英中』)

barnacle という英語(の綴り)を知らないかぎり、英和辞典や英英辞典では検索不可能だ。

2 カタカナ語検索

これも訳語検索であるが、「多くの英語学習者はカタカナ語は英語であり、日英間の違いはないものと思っている」(小島 1992:538)ので、カタカナ語は必ず和英辞典で確認する癖をつけさせたい。

ジュース¹ (缶詰などの清涼飲料) soft drink ☐; (果物を絞った果汁100%のもの) juice □ (『カレッジライトハウス』)

カタカナ語はれっきとした日本語だと教えた。

3 好奇心充足検索(?)

「若者たちは、いま自分たちが日常的に使用している日本語に相当する、生きた英語表現を学び」たがっているはずだ(山岸 1997:103)という信念に基づいて、「若者言葉」を積極的に収録している和英辞典もある。これも訳語検索の一種である。

ださい hick (やほな); crude (粗野な) (『スーパーアンカー』)

もっとも、好奇心を完全に満たすには、提示され

た訳語を英和辞典や英英辞典で確認しておきたい。
hick...AmE informal an insulting word for someone who lives in the countryside, and is considered to be less educated than people who live in the city (LDOCE) “insulting word”という「使用上の注意」を見落とさないように学習者の注意を促そう。

4 日本的物事に対する訳語検索

「日本語彙は、よほどうまく説明・処理しないと外国人からは誤解される」(山岸 1998:252)のは周知の事実である。例えば、「海苔」はどうか？

【のり】² 海苔 (海草) seaweed; (アサクサノリなど食用) laver (『ニューブロシード』)

「weedでは雑草そのものを指すことになり、食べようという気は起こらない」(阿部 1998:127)のなら、seaweedは文字通り「まずい」訳語だ。そこで、この辞書は欄外に補足説明をつけている。

【参考】 seaweed は海草一般を指す語だが、weed(雑草)のイメージがあって普通は食用に適さないものを言う。日本ののりには laver が用いられるが一般的には知られていない。nori or laver または nori, edible seaweed と訳すとよい。(『同上』) 必ず見出し項目全体を読むように指導したい。

日本的物事の見出しでは、(1)英米の対応物で代用する、(2)説明的に訳す、(3)そのままローマ字書きする、のいずれか、あるいはそれらの組み合わせになることが多い。「座布団」を比較してみよう。

(1) a cushion (『講談社キャンパス』)

(2) a square (Japanese) floor cushion (used for sitting) (『プログレッシブ』)

(3) a zabuton, a (seat) cushion; (説明的に) a futon for sitting; a Japanese hassock-like square cushion (used when sitting on the

tatami mat). (『グランドセンチュリー』)

それぞれの処理方法には長所短所がある。(1)は通じやすい反面、誤解される危険性が大きい。(2)は(1)の欠点を補うが、学習者はこの説明訳をそのまま用いて日本語を英文に訳すかもしれない。

「彼は座布団を敷いた」 ?He sat on the square Japanese floor cushion used for sitting.

この場合は単に “He sat on *the cushion*.” (『プログレッシブ』)と訳したほうが通じやすいが、(1)の問題点に戻ってしまう。さらにひとつふう必要だ。

そもそも日本のモノ・コトはそのまま日本語で言い表せばよい(山岸 1997:97)という考えに基づくのが(3)である。しかし、tofu や sukiyaki のように、「義理」も「人情」もすべて giri, ninjo で済めばラクである。そこで、(3)を用いる和英辞典は、説明的な訳を併記したり、囲み記事の形で説明の仕方のお手本を示したりするのが普通である。

説明 Zabuton is a square seat cushion stuffed with cotton wool which is used in a tatami-matted room.... (『旺文社和英中』)

筆者の経験では、日本的な事物を英語で紹介する場面は結構ある。たいていは自分が知っている英語で四苦八苦しながら説明するのだが、和英辞典に英語の説明が載っていれば救われる人も少なくなかう。ただし、和英辞典の訳を単純におうむ返しに言うのでは力がつかない。まずは自分なりの説明を英語で書いてから和英辞典を見るように指導したい。

5 日本語的表現に対する訳語検索

まず独力で英語で書いてから和英辞典で「プロ」の訳を見るというのは、持って行き方によっては学習者の好奇心をおおいにそそるはずである。

そもそも和英辞典は日本語を英語に訳す辞書なのだから、和英辞典が最もその威力を発揮するのは、極めて日本語的な表現を英語に訳す場合だ。擬声語や擬態語はその代表的な例である。例えば、「きのうは一日中家でごろごろしていた」といった文で用いられる「ごろごろ」を英語でどう表現できるか？

学習者に自分なりの訳を書かせてから和英辞典を取り出す。このような場合には、できるだけいろいろな和英辞典で名人芸(?)を比較するのがおもしろい。

He always idles his time away at home.

(『カレッジライトハウス』)

I just lie [hang] about [around] at home doing nothing on Sunday. (『プログレッシブ』)

I didn't do a lick of work all day. (『旺文社和英中』)

It's a pity to loaf around at home on such a nice day. (『スーパーアンカー』)

教室で辞書を比較する場合には、不用意に特定の辞書を批判しないほうがよい。たまたま自分が持ってきた辞書が批判されたら、だれだっていい気持ちはしない。むしろ、ある1つの日本語表現に対し、いろいろな角度から英語にできることを教えたい。

ただし、見慣れない単語や表現に出会ったら、できれば英英辞典で「裏づけ調査」をしておこう。

loaf² ... *v (infml)* to spend one's time not working, or not doing what one should be doing (OALD⁵)

別の英英辞典が示す用例 “Stop loafing (**about/around**) and get on with cleaning the windows!” (CIDE)ではむしろ「サボる」に近い。

仕事をサボるな Don't loaf on the job. (『ニュープロシード』「サボる」)

このように、和英辞典と英英辞典を往復することにより、ある日本語がある英語と一対一対応の関係になるわけではないことがよくわかるはずである。

6 シソーラス(類義語辞典)的検索

普通、学習者はある日本語に対応する英語の訳語1語を求めて検索する。しかし、実際には一対多対応であることが多い。例えば、「恥ずかしい」を和英辞典(『カレッジライトハウス』)で引くと、5語示されている。要約すると次のようになる。

ashamed (恥じる)

embarrassed (当惑している)

abashed, bashful (きまりが悪い)

shy (引込み思案で恥ずかしがる)

和英辞典のレイアウトによっては、シソーラス的性格がよく表れる(『ジーニアス』が好例)。

しかし、和英辞典とシソーラスとは異なる。英英類義語辞典 *Activator* で shy を引くと、bashful, coy, diffident, timid といった類義語が示されているものの、ashamed や embarrassed はあがっていない。つまり、日本語の「恥ずかしい」という

意味領域には *ashamed, embarrassed, shy* が含まれるのに対し、英語の *shy* の意味領域には *ashamed, embarrassed* は含まれないことがわかる。和英辞典はいわば日本語というメガネをかけて英語を眺めているのである。ここに和英辞典の価値がある。

7 見出し語の日本語に対する関連語検索

以上はすべて「既知」の日本語から「未知」の英語を求めたが、「既知」の英語を和英辞典で引く意味はないのだろうか？


見出し語(日本語)に対する訳語(英語)を知っていても、見出し語と関連する語の訳語を知っているとはかぎらない。例えば、「ネコ」= *cat* は小学生でも知っているが、「猫ばばをきめこむ」「猫いらす」「猫舌」「猫なで声で」についてはどうか？

ある和英辞典(『クラウン』)には、順に *pocket, rat poison, be unable to eat hot food, in a coaxing voice* などが訳としてあがっている。

英和辞典(『カレッジライトハウス』)で *cat* を引くと *kitten, pussy, tomcat* など *cat* の関連語は載っているが、*pocket* や *rat poison* などは出てこない。和英辞典は日本語(ネコ)が出発点になっているのに対し、英和辞典(や英英辞典)はあくまでも英語(*cat*)が出発点になっているからである。

8 英和辞典的検索

もう1つ、既知の英語を引いてみよう。

だいとうりょう 大統領  a president. (☆肩書きや特定の大統領に用いる場合には大文字で表わす。呼びかけは(大統領閣下)Mr President... (『グランドセンチュリー』)

“Mr. President” という呼びかけの形は、人によっては新鮮な発見かもしれない。

ところで、このような情報はどこで見かけたのではないか。そう、英和辞典である。

president... ①(共和国, 特に米国の)大統領(呼びかけるときは Mr. President という)... (『グランドセンチュリー-英和』)

「和英辞典はええわ(英和)」でもあるのだ。動詞型やコロケーション、文体差や語法注記など、英和辞典の「発信用情報」は多くの和英辞典にも収録され

ている。「英和辞典を引き直さなくても訳語の意味・用法がわかるような和英辞典」(小島 1992:540)を求める声に応じてのことだ。

9 スペル検索・発音検索

漢字を知りたくて国語辞典を引くように、スペル検索は和英辞典の重要な利用法である。

ウィーン *Vienna* [viˈɛnə] (『ドイツ語では *Wien*』) (『講談社キャンパス』)



綴りだけでなく、発音にも注意したいところだ。この見出しでは発音記号がついているので助かる。

英和辞典や英英辞典ではアルファベット順に単語が並んでいるから、綴りを知らないと引くことができない。こんなときは和英辞典が手っとり早い。

10 漢字検索・国語辞典的検索

和英辞典の隠れた使用法を2つ。

ばら 薔薇 a rose (『ラーナーズプログレッシブ』) 訳語の英語より漢字のほうが難しい。

ほぞ 臍(へそ) *naval*   ほぞをかむ(→深く悔やむ) *regret deeply* (『カレッジライトハウス』)

英語は単純だが、日本語は漢字も意味も難しい。ほんまに、和英辞典はええわ(=すばらしい)。

参考文献

◆引用辞書は原則として最新版を用いた。スペースのつごう上、出版データは省略させていただく。引用か所では用例その他を省略したことがある。

阿部一。1998。『ダイナミック英文法—生きた英語を使いこなすコツと感覚』研究社出版。

小島義郎。1992。「和英辞典」竹林滋他編。『世界の辞書』研究社。532-559。

山岸勝榮。1997。『英語教育と辞書』三省堂。

山岸勝榮。1998。『英語教育と辞書の思想と実践』こびあん書房。

次の文献も参照されたい。

中本恭平。2000。「和英辞典の存在意義」*Random* No. 25。東京外国語大学英語英文学研究会。47 - 61。

(共立女子大学文芸学部助教授)